

16日 火曜

Ⅱ サムエル



18:24 ダビデは外門と内門の間に座っていた。見張りが城壁の門の屋根に上り、目を上げて見ていると、見よ、ただ一人で走って来る男がいた。

18:25 見張りが王に大声で告げると、王は言った。「ただ一人なら、吉報だろう。」その者がしだいに近づいて来た。

18:26 見張りは、別の男が走って来るのを見た。見張りは門衛に叫んだ。「あそこにも、一人で走って来る男がいる。」王は言った。「それも吉報を持って来ているのだろう。」

18:27 見張りは言った。「最初の者の走り方は、ツアドクの子アヒマアツのもののように見えます。」王は言った。「あれは良い男だ。良い知らせを持って来るだろう。」

18:28 アヒマアツは王に「平安がありますように」と叫んで、地にひれ伏して、王に礼をした。彼は言った。「あなたの神、【主】がほめたえられますように。主は、王様に手向かった子どもを引き渡してくださいました。」

18:29 王は言った。「若者アブサロムは無事か。」アヒマアツは言った。「ヨアブが王の家来であるこのしもべを遣わしたとき、何か大騒ぎが起こるのを見ましたが、私は何があったのか知りません。」

18:30 王は言った。「わきへ退いて、ここに立っていなさい。」彼はわきに退いて立っていた。

18:31 見ると、クシュ人がやって来て言った。「王様にお知らせいたします。【主】は、今日、あなた様に立ち向かうすべての者の手から、あなた様を救って、あなた様のために正

しいさばきをされました。」

18:32 王はクシュ人に言った。「若者アブサロムは無事か。」クシュ人は言った。「王様の敵、あなた様に立ち向かって害を加えようとする者はみな、あの若者のようになりませうように。」

18:33 王は身を震わせ、門の屋上に上り、そこで泣いた。彼は泣きながら、こう言い続けた。「わが子アブサロム。わが子、わが子アブサロムよ。ああ、私がおまえに代わって死ねばよかったのに。アブサロム。わが子よ、わが子よ。」

ダビデ王が自分の敵となって自分を殺そうとした息子、アブサロムの死を嘆き悲しみました。親の愛とはこのようなものです。自分のことよりも子を愛するのです。これは神様が人を愛するゆえに人に与えた愛で、その源泉は神の愛です。

しかしながら、ダビデは本来はアブサロムを正しく教育すべきでしたし、彼が罪を犯したときにも正しく指導すべきでした。人間的な愛情だけでは、人を正しく導くことはできません。神様の御心に従って愛することが必要です。そのとき、感情に左右されてしまうような人間的な愛から、神様の愛であるアガペーに変えられるのです。

また親子の関係以外でも、人は感情だけでは正しい人間関係は築けません。主のみこころによる正しさが必要です。また、主の御心がその人の人生に成されるようにとの動機によって、人を建て上げることが必要です。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満ちしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？

